

食料・農業・農村政策の強化に向けた 政策提案などを決議

会長職務代理 高橋 敏 明

県農業委員会大会にて



村山市民会館にて

十一月八日、山形県農業委員会大会が村山市民会館において開催されました。県内の農業委員、農地利用最適化推進委員約八百人が参加、加えて、芳賀道也参議院議員、県関係者など、多数の来賓のご臨席をいただき進められました。

開会行事においては、農業委員会憲章を参加者全員で唱和した後、功労のあった団体・個人が表彰されました。

続く大会では、「食料・農業・農村政策の強化に向けた政策提案」を始めとする四議案が提出され、いずれも参加者の満場一致で決議されました。

閉会行事においては、ガンバロウ三唱、次期開催地の最上地区代表の挨拶を行い、大会を終了しました。

今大会に参加し、各地区からの様々な意見をお聞きしたことで、今後の活動に大変参考になりました。

みちのく村山農協役職員との懇談会

委員 星川 松雄

九月二十日、あつたまりランド深堀において、農業委員・農地利用最適化推進委員とJAみちのく村山大石田地区役職員との懇談会を開催しました。

先日の中央研修に引き続き、講師に鈴木憲和衆議院議員をお招きし、農政を巡る情勢についてお話をいただきました。

国内人口は減少していますが、世界的には増加しており、海外マーケットは拡大の可能性があります。現在輸出している尾花沢スイカなどは、まだまだ高価であるということでした。



農業施策について要望



鈴木憲和衆議院議員の基調講演

また、JAとJICA国際協力機構の連携による、途上国の農業・農村活性化のための取組等についてもご紹介していただきました。

その後の質疑応答では、大石田地区の重要案件である低温倉庫建設などについて要望しました。

この懇談会を通して、私たちは常に、町農業の発展のために先頭に立って邁進していく決意を新たにいたしました。

地域の話し合いで 農地の有効利用を図ろう

委員 飛渡 孝

遊休農地に対する国の対策は、固定資産税率を上げることや、農地中間管理機構に貸して遊休農地の発生を防止することなどがありますが、農地を借りる担い手が減少している中、この対策にも限界があるように思えます。

このような状況の中で、今回遊休農地パトロールを実施して思ったことは、特に山間部で、明らかに農地に復元できない土地が存在していることです。このような土地については、簡単に地目変更できるような国の法整備を進めてほしいと思います。



亀井田地内



大石田地内

また、復元可能な遊休農地については、これまで以上に手厚い補助事業を新設していただきたいものです。

現在は、農用地利用改善団体等の地域関係者の話し合いが基本となっています。農業委員や農地利用最適化推進委員からの情報を得ながら、地域の課題を明確化して農地の利用調整を図っています。将来的には、法人化に向けた話し合いもそろそろ必要になってくるのではないのでしょうか。

中央研修及び県選出国會議員 との意見交換

委員 青木 忠弘

八月二十九日～三十日にかけて、農業委員、農地利用最適化推進委員による中央研修を実施しました。

最初に、農林水産省大臣官房政策課の課長、課長補佐の二人から、昨今の農業情勢についてのお話をいただいた後、質疑応答を行いました。その中で、農地中間管理機構を通して貸借した場合、小作料の物納ができないという実態に対し、他県では物納を認めているところもあるといった事例の紹介もありました。また、各種補助金の交付について、現行の要件の緩和を要望してまいりました。

続いて外務省を訪問し、鈴木憲和外務大臣政務官(当時)と意見交換を行いました。鈴木政務官からは、日本は人口減少や高齢化でマーケットが縮小しており、今後は農林業の国際競争力を強化し、輸出産業への成長を目指すべきだという提起がありました。

翌日には、新設された豊洲市場の見学等も行い、非常に有意義な研修となりました。



議員会館での研修風景



鈴木憲和衆議院議員との意見交換